



心がゆるり

時間がゆるり、

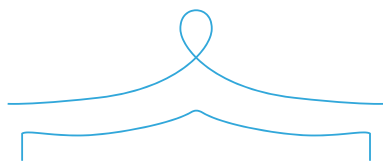


水郷柳川旅物語企画会議
(柳川市観光課)

TEL 0944-77-8564

令和8年3月発行

水郷柳川 ゆ ゐ り 旅 手 帖



水郷柳川ゆるり旅、 第2章へ。

この手帖は

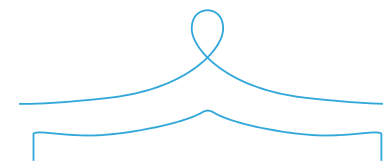
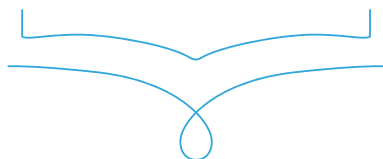
「水郷柳川ゆるり旅」の理念と想いを
関わる皆さんと共有するものです。

「水郷柳川ゆるり旅とはなんだろう？」と

分からなくなった時には

この手帖を開き、

思いを一つにしましょう。



目次

ゆるり旅のこれまで。…………… 04

ゆるり旅のこれから。…………… 06

ゆるり旅に関わる人たち。…………… 10

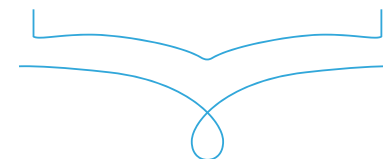
企画から実施まで。…………… 13

プログラムをつくるとは。…………… 14

では、具体的につくってみましょう。16

プログラムのその先へ。…………… 18

思いを新たに。…………… 19





スタートは 2013 年

ゆるり旅が始まったのは、2013年。

市の人口が減少するなか、
観光客を増やして人とお金の流れをつくろう、
という理由からでした。

さらに柳川には「川下り」や「うなぎめし」以外の
魅力がたくさんあり、それらを伝えたい。
そんな思いがありました。

近き者説び、遠き者来る

当初のコンセプトは
「近き者説(よろこ)び、遠き者来(きた)る」。

この近き者とは市民の皆さん、
遠き者は市外の皆さんです。

市民の皆さんが楽しいと喜び、
その楽しさに惹かれて遠方から人がやってくる。
そんな思いが込められました。

市民にとってなじみのある体験は、
遠方の方にとって面白いもの。
それは、柳川の魅力の再発見にもつながりました。

市民と行政、 観光協会が一緒になって

さまざまな体験をプログラムとして実施したのは、
観光業に限らず、肉屋さん、味噌・醤油屋さん、農家、
水産業、鉄工所、神社仏閣、市民ボランティアの皆さんなど。
市民と行政、そして観光協会など団体が手を組んで
市内に住む人、働く人のオール柳川で行い、
多くの縁をつないできました。

多様化していく思い

厳選した体験と温かみのあるおもてなし、
市民の皆さんのやりたいことの実現は、
地域おこし、生きがいに結びつきました。

一方、参加者が増えるにつれて
参加者の期待は多様化するとともに高まり、
実施する人々の思いもまた多様化していきました。

そこで、ゆるり旅はいったん立ち止まり、
ゆるり旅とは何か、
プログラムとは何か。
ゆるり旅のこれから、について
改めて考えてみます。





ゆるり旅は、 体験型の観光です。

ゆるり旅は、
さまざまな体験をプログラムとして提供し、
市内外の参加者に楽しんでもいただくものです。

体験を通じて柳川のファンを増やす、
観光の質を高める、
体験が柳川の文化となる、
柳川の新たな魅力になることを目指します。

ゆるり旅は、
観光をもとにしたまちづくりであり、
人づくりでもあります。

暮らしや文化をもとに 体験を企画します。

観光の語源は、光を観ることだといいます。
旅ときけば、よそへ出かけていくものだと考えがちですが、
ゆるり旅は足もと、地域の“光”に目を向けていきます。

“光”とは、自然や人の暮らし、歴史、文化、ふれあい。
それらを感じさせる体験をプログラムとし、
旅する気分で、市民も柳川を楽しめるものとします。

市民が中心となって 企画・実施します。

まちの賑やかさだけでなく、
そこに息づく風土や歴史、風習、伝統、味、
人のエネルギーに惹かれて、人はやってきます。
業種・年齢問わず、みんなで光を見つけ
ゆるり旅ならではの
体験として磨いていきます。





おもてなしが 魅力になります。

気負わず、まごころをもって接する。

心にほんのり、温かさを持って帰っていただく。

それがゆるり旅の考えるおもてなし。

方言そのまま、笑顔でおもてなししましょう。

合言葉は 時間がゆるり、心がゆるり。

川下りに象徴される、ゆるりとした時の流れと、

参加者と案内人とのおだやかな交流を

ゆるりゆるりと楽しみましょう。

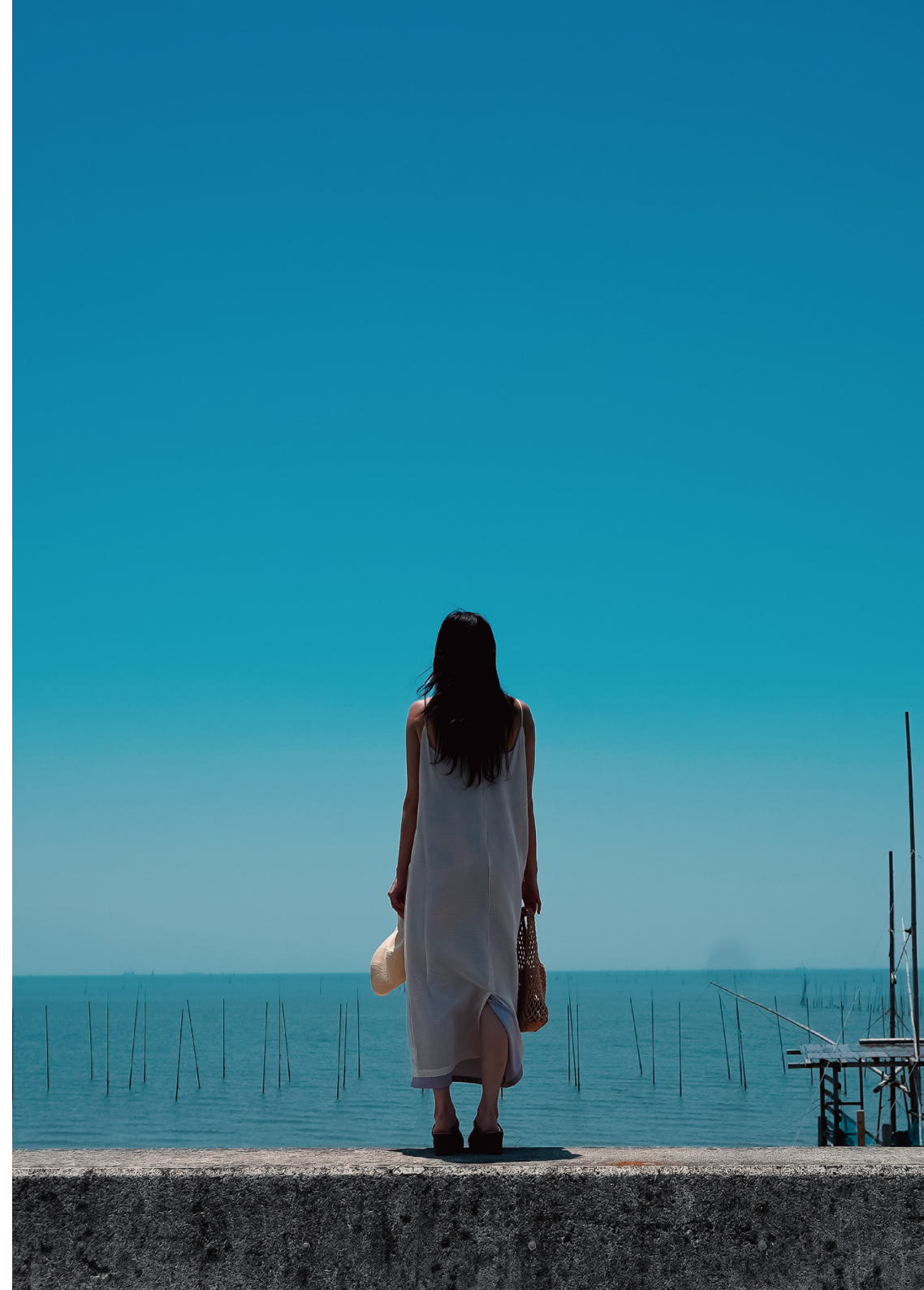
体験はいつしか 柳川観光の目玉に。

体験とおもてなしによるプログラムはやがて

「川下り」「うなぎめし」に続く柳川観光の一つとなり

人を集めるものにしていきましょう。

ゆるり
旅の
これ
から。





主催者は 「水郷柳川旅物語 企画会議」です。

ゆるり旅を主催するのは、
柳川市と柳川市観光協会の連合体からなる
「水郷柳川旅物語企画会議」です。
この「水郷柳川旅物語企画会議」は柳川市職員、
柳川市観光協会職員、コーディネーターによる
プロジェクトチームをつくり、
予算編成・承認を行ってゆるり旅を実施。
柳川の魅力づくりを進めています。

案内人は、 柳川の顔です。

案内人とは、
柳川の風物・文化、自分の技術をもとに
プログラムをつくり、実施する人です。
参加者とふれあう案内人は、
柳川を代表する一人であり、
柳川の顔となります。
観光大使になった気分でおもてなししましょう。

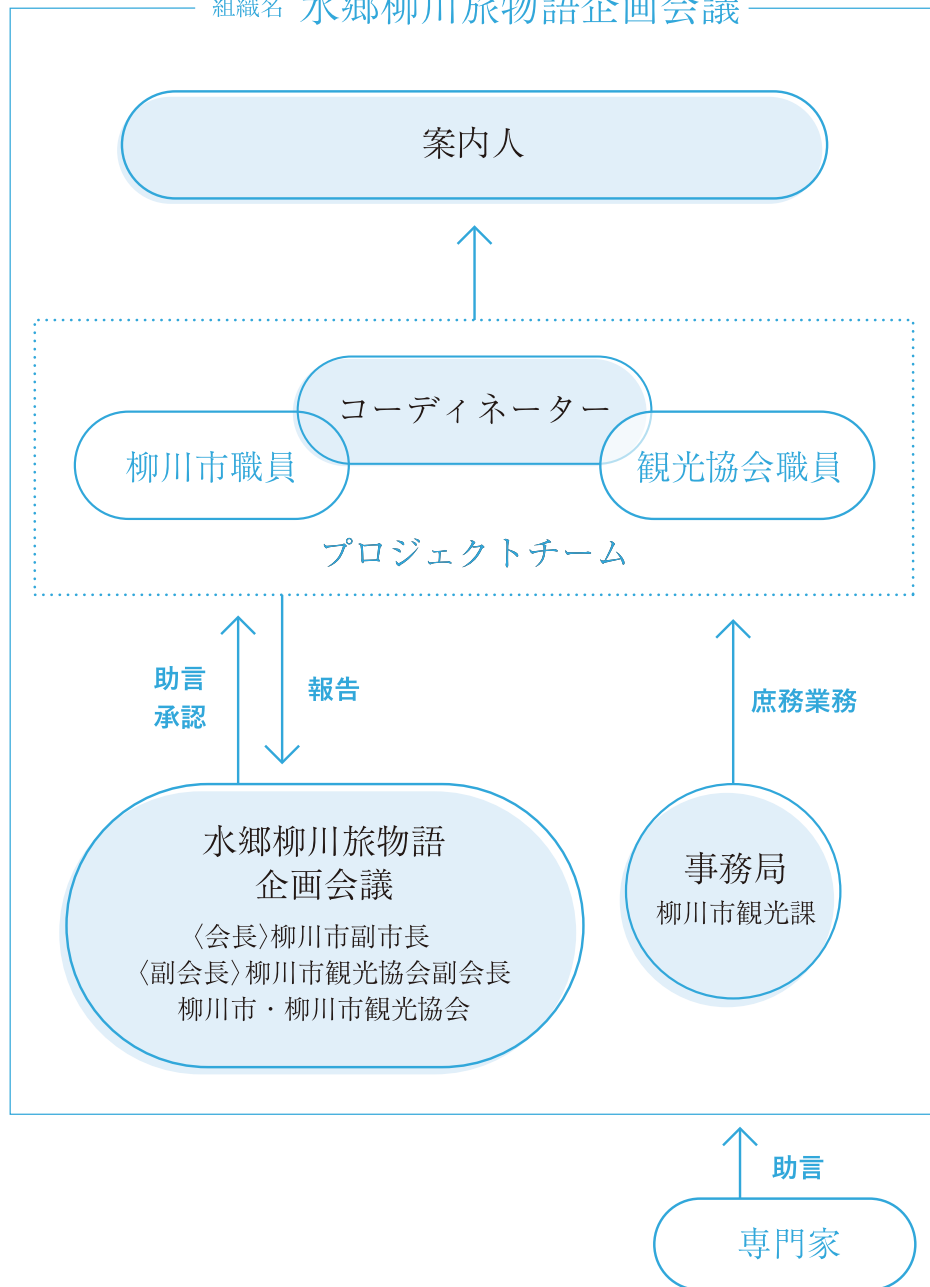
コーディネーターは、 案内人の伴走者です。

コーディネーターとは、
案内人をサポートし、
事務局との調整を担う人です。
旺盛な好奇心と柔軟な発想、専門性を磨いて
参加者の目線で案内人と一緒に
ゆるり旅ならではの
プログラムをつくっていきます。
また一緒につくる熱意ある案内人を探すため、
アンテナを張っていきます。

事務局は、 庶務を担います。

柳川市観光課を事務局とします。
事務局は、予算管理、
企画会議本部への報告、
広報宣伝活動、
コーディネーターらとの
プロジェクト会議や
「ゆるり旅講座」などの庶務を担います。





01. 事務局は、観光課、観光協会、コーディネーターからなるプロジェクトチームを結成
02. 事務局は案内人にプログラムシートを配付
03. 案内人はプログラムシートをもとにプログラムを考え、事務局に提出
04. プロジェクトチームは、プロジェクト会議を行い、プログラム内容を検討
05. プロジェクトチームは、案内人との相談会を行い、プログラム内容をブラッシュアップ
06. プログラム決定
07. ホームページ、チラシ等を作成
08. キックオフ・広報活動
09. 予約受付を開始
10. プログラムを実施
11. 振り返り・意見交換会

企画から実施まで。



したいこと・できること・ 求められること。

プログラムをつくるとき、
したいこと、できること、求められていること、の
3つを考えましょう。

したいこと = 熱意

できること = 現実性

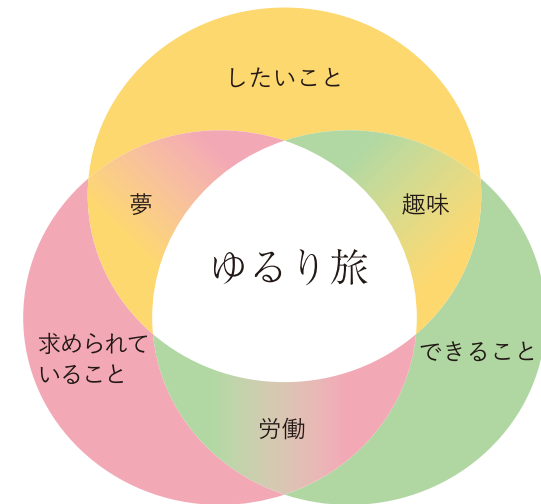
求められること = 市場性

したいことがあって、実現できても、
求められていなければ趣味になってしまう。

したいことがあって、求められていても、
実現できなければ夢で終わってしまう。

求められたからといって、したくないことをしても、
楽しくありません。

ゆるり旅は、
案内人のしたいことを実現するためのものではなく、
したいこと、できること、市場から求められること、
この3つが重なるものが理想です。



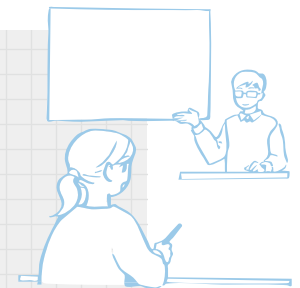
“ゆるり旅らしさ”とは。

柳川らしい体験、この時にしかできない特別な体験を
ゆるり旅のプログラムとします。

柳川らしい体験とは、柳川の風物、歴史、
暮らしを感じさせるもの、
案内人の柳川への思いを感じさせるものです。

ゆるり旅講座を行います。

柳川の歴史を紹介したい。
柳川の産業を知りたい。
おもてなしはどうしたらいいの？
自分の魅力を伝えるにはどうしたらいいの？
ゆるり旅らしさのヒントになる「ゆるり旅講座」を実施します。



したいこと、できること、
求められていることを考えながら、
ゆるり旅ならではのプログラムを
つくってみましょう。

したいことを考えてみる。

まず、自分の気持ちを確認しましょう。

- なぜ、その体験をしてもらいたいですか。
- 体験で何を伝えたいですか。
- 人任せにせず、主体的に取り組めますか。

できることを冷静に見てみる。

参加者に提供できるスキルを考えてみましょう。

- 自分にしかできないものがありますか。
- 参加者に伝えられる知識やスキルはありますか。
- 無理なく続けて実施できますか。

求められていることを具体化する。

参加者について考えてみましょう。

- 参加者にはどんな人を想定していますか。
- 参加者は参加したことで何を得られますか。
- 初めての人も
「やってみたい」と思える内容ですか。

ゆるり旅らしさを考える。

柳川で体験する意味を考えてみましょう。

- 他の地域でできる内容になっていませんか。
- 柳川の暮らし・文化を感じられますか。
- 柳川の名物を足しただけになっていませんか。
- 体験や自分自身が
「柳川といえbaumagi・川下り・○○」の
○○になれるか。

何気ない体験がアイデアと工夫次第で

ゆるり旅ならではのプログラムになります。

子どもの頃の柳川の思い出、体験を振り返り、

あなたのストーリーをもとに考えてみましょう。



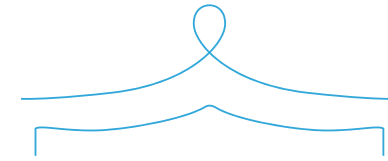
ゆるり、ふらりの 柳川へ

期間限定プログラムとして生まれ、
多くの方に選ばれ続けた体験は、
通年型プログラムとして独り立ちします。

柳川ならではの体験が充実し、
通年型プログラムとして
いつでも予約でき、気軽に楽しめるようになる。
それが、ゆるり旅の目指す姿です。

ゆるり旅の名のもとに、
通年型プログラムが柳川の魅力を伝え続け
観光や移住する人々の
柳川を知る・訪れる入口になっていきます。

案内人やコーディネーターなど
関わる人々にとって
ゆるり旅は自分の活動や思いを伝え、
自分らしい魅力を育てていく場です。
その経験は、関わる皆さんの本業や
これからの活動に広がっていきます。



思いを新たに。

「水郷柳川ゆるり旅」は
これまで 600 以上のプログラムに
6,000 人以上の方々が参加してくださいました。
市民が中心となってプログラムをつくり
10 年以上続いているという、
他の地域の方々は驚きます。

こうして長く続いたのも
これまで関わってくださった方々のおかげです。

改めて感謝申し上げます。

「水郷柳川ゆるり旅」は、
プログラムづくりを改めて考え、
思いを新たに再出発します。

柳川を面白くしたい。楽しみたい。伝えたい。
皆様のご参加をお待ちしています。

